

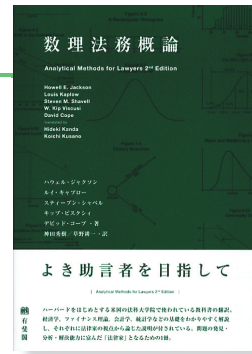
# 数理法務概論

—Analytical Methods for Lawyers

ハウエル・ジャクソン (Howell E. Jackson) = ルイ・キャプロー (Louis Kaplow) = スティーブン・シャベル (Steven M. Shavell) = キップ・ビスクシ (W. Kip Viscusi) = デビッド・コーブ (David Cope) 著

神田秀樹 = 草野耕一 訳

2014年3月刊 / 548頁 / 本体5500円+税



Book Information

**編集担当者から** 実務では、法律の知識・法解釈の力量“だけ”では、問題を解決できないことが多い。——  
実社会では、大学の試験問題などとは異なり、はじめから事実関係や評価が「確定されたもの」であることは少なく、適切な判断を下す前提として、事実に対する「分析」がどうしても必要になってきます。もっとも、これは法律の知識だけでは難しい面もあり、他の科学の知見を活用することで、より優れた分析が可能になるでしょう。

本書は、法律家が事実や法制度を分析する際に有用となる様々な社会科学の基礎を学ぶことができる1冊です。もちろん高度な分析はそれぞれの専門家と協働する必要があると思いますが、そもそもそのような分析が必要か否かは、依頼者と相対している法律家自身が判断しなければなりません。そのきっかけを掴むための基礎知識——経済学、ファイナンス理論、会計学、統計学などの基礎——を、法実務や法律学においてこれらを活用することの有用性を具体例とともに示しつつ、わかりやすく解説しています。きっと視野の広がる読書体験となるでしょう。(F)

## Index



ハーバードをはじめとする米国の法科大学院で使われている教科書の翻訳。

- 第1章 決定分析
- 第2章 ゲームと情報
- 第3章 契約
- 第4章 会計
- 第5章 ファイナンス
- 第6章 ミクロ経済学

- 第7章 法の経済分析
- 第8章 統計分析
- 第9章 多変数統計

\*各章に丁寧な訳者注と日本語文献の読書案内を追加。